

創建 1350 年記念事業

事業概要	◆寺宝修復（県指定文化財） ◎『金剛界曼荼羅』（室町時代初期） ◎『胎藏界曼荼羅』（室町時代初期） ◎『紅頗黎色阿弥陀如来図』（室町時代初期） ◆なで仏「喜笑龍」像建立 ◆法海寺展開催（歴史民俗博物館） ◆法海寺史編纂・儀軌解説 ◆ホームページ開設など
事業担当	法海寺創建 1350 年記念事業実行委員会 知多市歴史民俗博物館
事業費用	総事業費（含諸経費） 約 1 千 3 百万円
事業期間	平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月
創建記念祭	平成 30 年 11 月 11 日

記念事業活動略歴

年 月 日	実 施 内 容
平成 28 年 4 月 23 日	法海寺創建 1350 年記念事業を検討するため有志会合
平成 28 年 7 月 11 日	「法海寺創建 1350 年 記念事業創案世話人会」発足
平成 29 年 2 月 11 日	「法海寺創建 1350 年 記念事業計画書」(案) 審議
平成 29 年 4 月 8 日 }	第 1 回「法海寺創建 1350 年記念事業代表実行委員会」開催
平成 30 年 10 月 8 日	第 10 回「法海寺創建 1350 年記念事業代表実行委員会」開催
平成 29 年 5 月 8 日	「法海寺創建 1350 年記念事業実行委員会」発足 記念事業基金勧進開始
平成 29 年 10 月 27 日	法海寺住職に立松圓俊氏が就任した旨、関係者に通知
平成 30 年 4 月 8 日	新正副委員長着任 第 4 回「法海寺創建 1350 年記念事業代表委員会」開催
平成 30 年 5 月 8 日	第 2 回「法海寺創建 1350 年記念事業実行委員会」開催
平成 30 年 9 月 1 日	稚児行列参加申込み受付開始
平成 30 年 11 月 11 日	法海寺創建 1350 年記念祭開催

◇記念事業 1 番 喜笑龍石像・説明板設置



◇記念事業 9 番 掛軸修復 (県指定文化財)

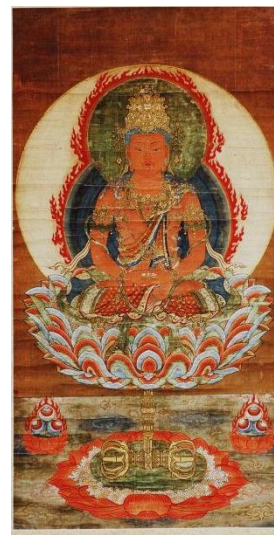
金剛界曼荼羅



胎藏界曼荼羅



紅頗黎色阿弥陀如来図



記念事業一覧

番 号	件 名	時 期	費 用 (千円)	備 考
収入	記念事業基金勧進額		8,361	八幡 14 地域及び地縁者寄進
支出	記念事業費総額		11,138	
	収支差額		-2,777	八幡区補助金他を振当て
1	喜笑龍石像・説明板設置	H27/8	—	故立松圓浄先代住職寄贈
2	法海寺パンフレット作成	H29/4	570	八幡全家庭配付
3	コミュニティ広報紙連載	H29/7	—	H29/7～H30/3 全 6 回
4	法海寺大百科展開催 「法海寺大百科」小冊子作成	H29/11 H30/11	50	八幡まちづくりセンター文化祭 一般出展
5	薬王山法海寺儀軌解説	H30/6	—	山田伸彦氏無償協力
6	法海寺ホームページ開設	H30/9	600	https://houkaiji - yawata.com/
7	寄進者記念品		1,000	
	お守り	H30/9	314	創建 1350 年記念文字入
	タオル	〃	371	創建 1350 年記念文字入
	記念事業基金勧進芳名録	〃	230	
	祝典のしおり	〃	86	
8	御 札	〃	449	創建 1350 年記念文字入 八幡全家庭配付
9	掛軸修復	H30/10	6,830 -3,186	愛知県文化財保存事業費補助金
10	法海寺展開催 (11/3～12/9)	H30/11	485	知多市歴史民俗博物館主催 開催チラシ知多市全家庭配付
11	記念祭		1,887	
	稚児行列	H30/11	—	稚児参加費充当
	本山特使・僧侶法要経費	〃	1,520	
	御本尊御開帳 (11/9～11/11)	〃	—	御開帳基準新設 12 年周期を明文化
	尾張万歳奉納	〃	—	尾張万歳保存会無償協力
	臨時施設・警備員	〃	367	
12	仁王門前環境整備	H30/10	653	
13	法海寺史編纂	H31/1	1,800	500 部作成、費用は予定
	記念事業費合計		11,138	

◇記念事業6番 法海寺ホームページ開設

薬王山法海寺のホームページにアクセスいただき、ありがとうございます。

当寺の正面右手には寺号を刻んだ大きな石柱があり、その上方を見ると、「天智天皇勅願所」「日本三薬師の一」の文字が目に入ります。天智天皇の七（六六八）年に創建され、今日まで千三百有余年の歴史を誇る屈指の古刹でございます。伝教大師こと「最澄」が開宗した、比叡山延暦寺を総本山とする天台宗の教義に準じ、近隣地区総意の祈願寺として維持・管理されているお寺です。

石柱を通り越したところで、小規模ながら寛文六（一六六六）年造立の仁王門と、同時期に門内に安置された仁王尊像がお出迎えいたします。江戸初期の伝統的な技法を用いた正統的な門であり、建築的な質も高く知多市の指定文化財に登録されています。仁王門をくぐると、正面に本堂が見え、同時に参道の両脇にそびえる巨木がみなさんを圧倒することでしょう。樹齢数百年の楠四本に覆われた奥深い参道に沿って、本堂、地藏堂、庚申堂、十王堂、鐘楼などが建ち、江戸後期の景観がよく保たれていると識者からの評価をいただいています。

何はともあれ、ぜひ一度お運びくださいますよう、心よりお待ちしております。

合掌

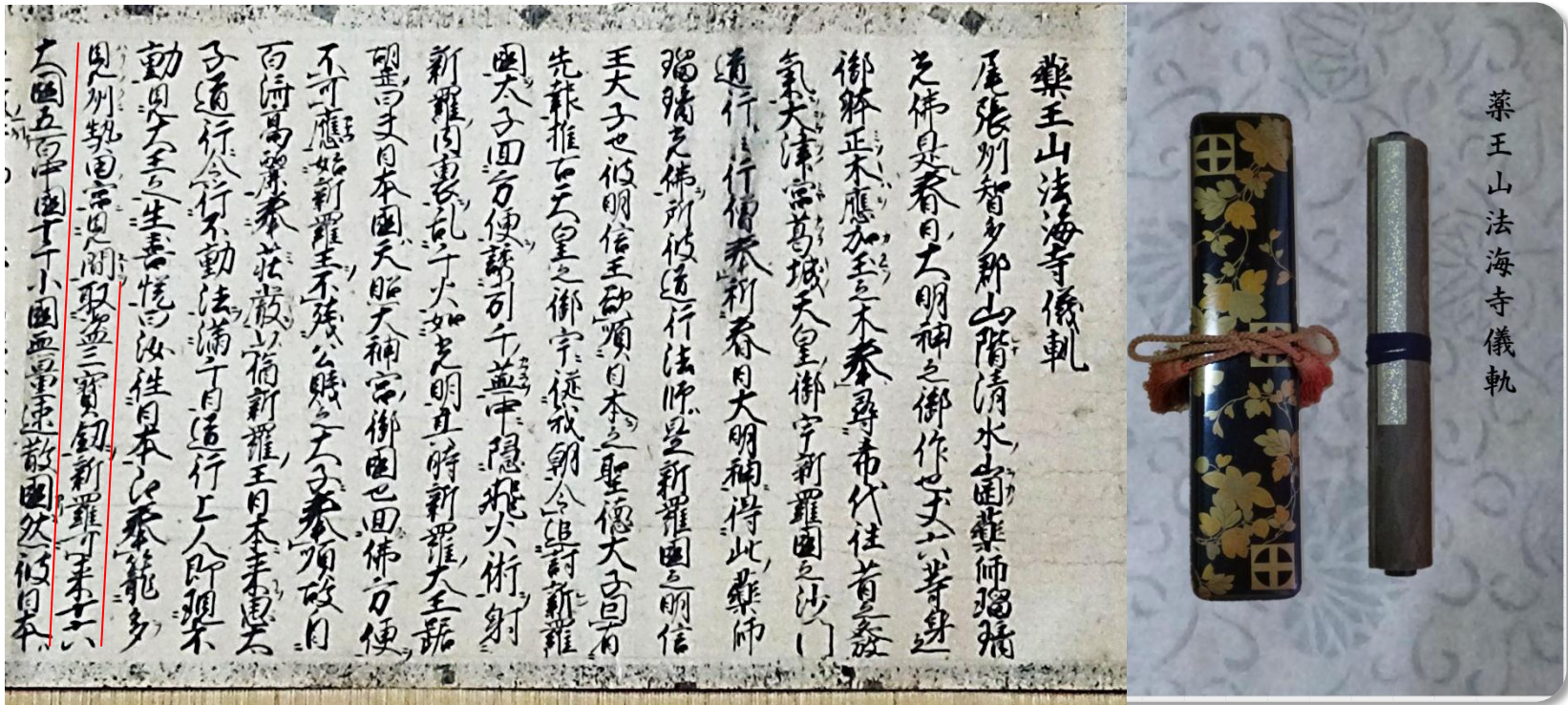
◇記念事業5番

「薬王山法海寺儀軌」

山田伸彦解説

尾張州智多郡山階清水の崗の薬師瑠璃光佛は、春日の大明神のお作りになったものである。一丈六尺、仏の等身大の御鉢で、用材はオガタマの木（神社に植えるモクレン科の常緑樹。ここでは霊木の意。）である、その珍しい発祥を訪ね奉ると、大津宮こと葛城の天皇（天智天皇）の御代、新羅国の沙門、道行という行僧が春日大明神に祈り奉り、この薬師瑠璃光佛を得たということである。

その道行法師という者は、新羅国の明信王の王子である。その明信王は、日本をしたがえようとしたことがあった。しかし聖徳太子は、いち早く情報を手に入れたので、推古天皇の御代に我朝から新羅国を追い討った。太子は知恵を回らし、新羅軍を誘い込んで、千の鎬矢にひそかに飛火術を仕込み、新羅の宮廷を射た。千火乱れ、光明のようであった。その時、新羅の大王は正座してすわりこんでいうことに、「そもそも日本国は天照大神宮の御国である。仏が方便を回らしたところでかなうわけがない。」新羅王を始め身分の貴いものも賤しいものも聖徳太子に恭順したため、百済・高麗も捧げ物を奉った。それでもなお新羅の王は日本を攻める意志を捨てず、太子の道行に不動明王の修法を行わせて、千日の満行に達した。道行上人は不動明王の姿となった。大王がこれを見て大喜びしていうことに、汝は日本へ往き、すぐに尾張国熱田神宮に籠もって、すきを見て三寶剣（三種の神器のひとつ、草薙の剣）を盗み取り、新羅へもつて来い。世界には十六の大国、五百の中国、十千（一万）の小国、無量（無数）の速散国（粟散、粟粒のようにちっぽけな国）がある。しかるにかの日本は速散の一州にすぎないのに、三寶剣が有ることによって、ほかの大中少国に勝る。この三剣を奪い取って来て新羅が日本を討伐し、鎮圧しよう。



法海寺 第百三十五世住職 立松圓俊
<https://houkaiji-yawata.com/>